

たんさく 青森の戦跡・慰霊碑を巡る⑧

太平洋の海を見張った 葦毛崎電探基地



中心にある電探の基礎

八戸市種差海岸にある鯨角灯台のすぐ近く、現在は太平洋を一望できる葦毛崎展望台として開放されているこの場所には、戦時中旧日本軍の電探基地がありました。

電探とは電波探信儀(でんぱたんしんぎ)の略で、電波をだし、ものに当たって跳ね返ってきた電波を測定して、対象との距離や方向を測るレーダーのことです。葦毛崎には、防空用の電探が設置され、無線基地として対空監視を行っていました。

上の窓状に穴が開いている外壁は、戦後建てられた物で、戦時中は下の土台部分の中央に電探が設置されていました。現在電探は取り外されていますが、その基礎が残っています。

それよりも前には、現在はその遺構はのこされていないようですが、幕末に幕府の命令で八戸藩が異国船監視のために建てた鯨浦台場(または、鯨台場)という見張り台があったそうです。

訪れたことがある方の中には、うみねこラインに沿って、コンクリート柱が立っているのを見た覚えがある方がいると思います。近くに旧海軍基地(蕪島)や今回紹介した電探基地があることから、軍事関係の遺構かと勘繰ってしまいましたが、これはいつだれが建てたかは調べてもわかりませんでした。しかしな



▲手前のコンクリート柱と奥の黄丸でかこっている柱がマイルポストで、手前と奥のマイルポストで1セットです。現在は撤去されていますが、対となるマイルポストが蕪島側にありました。そちらは3本1セットだったそうです。マイルポスト間を船が航行して速度を計測していたそうです。赤丸が葦毛崎展望台、右奥の灯台が鯨角灯台です。

がら、用途ははっきりしており、このコンクリート柱は「マイルポスト」という、速度を測る計器がまだ発達していなかった頃に使用されていた船の航行速度を図るための装置です。海から見えるように2本1組の柱が建てられており、海から見て前後2本の柱が重なるところから計測を開始し、先にある別の組みになるマイルポストが重なるまで航行してその到達時で船の航行速度を測定します。写真のものは2本で組みですが、これと対になる組みのものは、海から見えなくなる場合があったことから、3本配置して見えなくなることを防止していたそうです。(この3本は撤去されているようです。)

葦毛崎の由来は昔周りの草原が馬の放牧地で、草原を歩き回っていた葦毛(灰色の毛)の馬にちなんだものだそうです。現在も馬を育成している牧場があり、鯨角灯台に登るとその牧場が見えます。

昼間は太平洋のパノラマやリアス式海岸の地形を見渡すことができ、夜には、漁火が見えることもあります。初夏にはゼンテイカやハナノショウブが花を咲かせ、気持ちのいい海風が吹き抜けます。

葦毛崎展望台は戦跡ではありますが、現在は近くに蕪島や鯨角灯台もある風光明媚なところです。すぐそばに駐車場があり、ソフトクリームで有名な売店もあるので、ぜひ一度訪れてみてください。

秋まつり みんなのあそびばを
開催しました。五所川原地域
五所川原地域リーダー会

11月2日(日) 五所川原市地域福祉センターで五所川原市社会福祉協議会、コープあおもり五所川原地域リーダー会主催、五所川原市食生活改善推進委員会、NPO法人ほほえみの会協賛「秋まつり みんなのあそびば」を開催しました。地域のアクティブシニアや高校生のボランティアも加わり、総勢42人のスタッフが協力して秋まつりを盛り上げました。

【お楽しみコーナー】では、わなげ、ターゲットゲーム、ポップコーンの無料配布、手作り小物の販売、コーヒーとコーヒー豆の販売、おりがみで作る金魚ねぶた、コーすけのふうせんをプレゼントしました。

【試食コーナー】は、先着100食限定「季節のみそ汁」と「CO・OP ごぼう飯」を試食をしていただきました。試食は100食限定があつという間になくなり、たくさんの来場者にスタッフも驚きとうれしさでいっぱいでした。

生協まつりを
開催しました。下北地域
下北地域リーダー会

11月9日(日) 下北文化会館展示ホールにおいて、下北地域リーダー会主催の「生協まつり」を開催し多くの方が訪れました。

健康づくりコーナー(体組成計とベジチェック)、商品販売コーナー、活動紹介コーナー、平和ユニセフコーナー、ドリンクコーナー、キッズコーナー、仲間づくりコーナーを設けて様々な生協の活動を紹介しました。CO・OP共済マスコットキャラクターのコーすけも参加し、会場全体が笑顔に溢れた企画となりました。

今後の予定、最新の各地域の取り組みはこちらからご確認ください。

